

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月12日現在

機関番号：82619

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2012

課題番号：21320031

研究課題名（和文） 文化財保護の歴史に関する基礎的研究

研究課題名（英文） Basic study on history of the cultural properties protection

研究代表者

高橋 裕次（TAKAHASHI YUJI）

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸企画部博物館情報課・課長

研究者番号：00356271

研究成果の概要（和文）：1. 明治4年(1871)から現代にいたるまでの文化財保護の歴史に関する資料を収集、整理し、その成果を展示などで公開した。博物館における文化財の伝来、活用、修理などの詳細を記録した資料のデータベースを作成したことで、博物館史研究における利便性の向上をはかることができた。また、あらたに600箱の資料を収集、整理し、分析を行った。

2. 国内外の主要な博物館において文化財保護に関する資料の管理状況を調査した。英国の大英博物館、V&A博物館では、国立公文書館などの集中管理とは別に、国の基準にもとづいた資料の保存環境や体制を整備し、すべての公文書や資料を保存するシステムをとっている。また韓国国立中央博物館でも文化財保護に関わる公文書や資料を保存する方式が整いつつある。わが国の博物館における公文書管理の整備が急務であることが明らかとなった。

1. I collected documents about the history of cultural properties protection from 1871 to the present age and arranged it and showed the result by display. I was able to measure improvement of the convenience in the history of museum study by having made the database of the document which recorded the details such as transmission, the inflection of the cultural properties in the museum, the repair. In addition, I collected 600 documents newly and arranged it and analyzed it.

2. I investigated the management situation of the document about the cultural properties protection in domestic and foreign main museums. In the British Museum, the V&A Museum, I maintain preservation environment and the system of the document based on the standard of the country separately from central control such as National Archives and take the system saving all official documents. In addition, a method to save an official document and the document which affect cultural properties protection at the Korean national central museum is set. It was revealed that maintenance of the official document management in the museum of our country was urgent business.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	4,000,000	1,200,000	5,200,000
2010年度	3,100,000	930,000	4,030,000
2011年度	3,000,000	900,000	3,900,000
2012年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
総計	13,500,000	4,050,000	17,550,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学・美術史

キーワード：(1)博物館史、(2)公文書、(3)実態調査、(4)データの公開、(5)情報発信、(6)国際情報交換(韓国)

1. 研究開始当初の背景

(1) 東京国立博物館は、明治5年(1872)の創設より、昭和25年(1950)文化財保護法の施行後に文化財保護委員会の付属機関となるまでの間、日本の文化財保護に関わる事業において、中心的な役割を果たした。明治4年、明治になって初めての文化財保護に関する法律である「古器旧物保存方」の基礎をつくり、明治5年、博物局(東京国立博物館の前身)の町田久成、蜷川式胤らが宝物調査(壬申検査)を行った。その調査結果である「壬申検査宝物図集」(重要文化財)や、明治21年(1888)宮内省の臨時全国宝物取調から始まる旧国宝制度、戦後の文化財保護法の制定に関する資料などを所蔵する。これらの資料をデータベース化し、公開する。関係機関が連携して、全国各地に所在する文化財保護関連の資料を体系的に研究する必要がある。

(2) 設立の事情や活動形態の異なる博物館における文化財保護を軸とした活動の歴史を明らかにすることで、共通の課題である文化財保護のあるべき新しい姿を追求する。そのために、明治22年に設立された奈良国立博物館、京都国立博物館をはじめ、国内外の主要な博物館の所蔵する関連資料を収集し、分析を行う。

2. 研究の目的

(1) 東京国立博物館で所蔵する文化財保護の

歴史に関わる調査の資料、報告書、宝物の模写絵図や拓本類を可能な限り収集、整理し、そのデータを公開することで、日本における博物館史の研究に寄与する。

(2) 国内外の主要な博物館における文化財保護の現状や、関連資料の保存・管理状況などの実態調査を行い、今後の博物館史のあり方を検討するとともに、データ公開に向けて、どのようなことに留意すべきかの検討をする。

3. 研究の方法

(1) 東京国立博物館に現在残されている文化財保護の歴史に関する資料は、さまざまな形態でばらばらに保管されている。作品として収蔵庫に保管されている場合や、館内の書架にまだまだ未整理の資料が課ごとに保管されている場合もある。これらのすべてを一箇所にまとめ、目録を作成して、資料の全体像の把握を行なう。

(2) 文化財保護の歴史に関わる資料のデータ化と公開は、博物館史は勿論、日本美術史や日本近代史等の研究を進展させるための基礎的な資料を提供することになる。文化財保護の研究を進めるためには、国内外の歴史ある博物館・美術館を実地調査して、実務担当者に面会し、文化財保護の歴史を具体的に調査し、併せて公文書の保存・管理の実態を

比較検討することが必要である。

4. 研究成果

(1) 東京国立博物館が所蔵する文化財保護の歴史に関わる資料の全体像の把握を行った。そして、他の施設が所蔵する文化財保護の歴史に関わる資料の調査をしながら、東京国立博物館が所蔵する資料の目録のデータ化を進めた。

(2) 国内外の主要な博物館における文化財関連資料の管理状況などを明らかにするため、英国の大英博物館、V&A 博物館などの実地調査を行った。国内の博物館ではほぼ未整理の状態であるが、V&A 博物館、仏のルーブル美術館では、国立公文書館などの集中管理とは別に、国の基準にもとづいた資料の保存環境や体制を整備し、すべての公文書や資料を保存するシステムをとっている

また、韓国国立中央博物館の研究者と、東京国立博物館、山口県山口博物館における文化財保護関連資料の調査および、日韓両国の文化財保護に関する討議を行った。韓国の国立中央博物館では、文化財保護に関わる公文書や資料を保存する方式が整いつつあり、我が国における博物館の公文書管理の整備が急務である。

(3) 東京国立博物館が所蔵する文化財保護関連資料について、あらたに600箱の関連資料を収集し、その収集と整理を継続して行った。「列品録」や「重要雑録」など、文化財の伝来、活用、修理などの詳細を記録した関連資料の検索用データベースを作成したことで、博物館史研究における利便性の向上をはかることができた。今後は、画像をとまなうデータベースを構築し公開するとともに、全国の博物館と連携して、日本の博物館史研究のモデルを検討することが課題である。

(4) 国内外の博物館の文化財保護に関わる

事業（収集・展示・保存・活用）の資料を収集するとともに、東京国立博物館が所蔵する資料の目録のデータ化と、『東京国立博物館百年史』などの基礎となった資料のデジタル化を進めた。そのデータの分析を行った成果として、東京国立近代美術館の60周年記念のシンポジウムでの講演・討議に参加し、戦前まで日本の文化財保護政策において中心的役割を担ってきた東京国立博物館が行った近代美術の収集と展示の実態を検討し、文化財保護行政と博物館事業の二つの観点から、その歴史的意義を論じた。

(5) 文化財保護に関連する作品や資料について、デジタルカメラによる記録撮影や、スキャニングによるデータ収集、目録作成と、さらに伝来、活用、修理などの詳細な情報を関連付ける作業を行った。資料の全貌をほぼ明らかにするとともに、データベースを作成したことで、文化財保護と博物館に関する総合的な研究をするための基礎的な作業はおおむね順調に進展している。

(6) 本研究に係る「文化財保護の歴史」をテーマに資料の展示を行い、基礎資料を配布した。これまでの研究の成果について、以下の東京国立博物館における特集陳列で公開を行った。

平成 21 年度

「皇室と東京帝室博物館」10/14～12/6

「博物館の創始者・蜷川式胤の収集資料」
12/8～1/17

平成 22 年度

「東京国立博物館の模写・模造－平家納経－」
10/19～11/28

「博物館の創始者・蜷川式胤の文化財保護」
3/27～5/20

平成 23 年度

「日本を歩く－北陸編－」（博覧会事務局の収集資料を中心に）4/26～6/5、

「江戸の残照・変貌する明治日本」(蜷川式
胤の文化財調査資料より) 6/7~7/18

平成 24 年度

「九鬼隆一と帝国博物館—臨時全国宝物調
査の展開—」 5/22~7/16

「大正元年 帝室技芸員からの寄贈品」

9/19~12/9

さらに平成 21 年度に開催した特別展『皇室
の名宝』では、明治 21 年(1888)より 55 年間
にわたり、皇室が美術工芸技術の保護と制作
の奨励を目的として設置し、東京帝国博物館
(東京国立博物館の前身)の総長が任命した
「帝室技芸員」の制度に焦点をあてる展示を
実施した。

平成 25 年 3 月には、美術に関する学術資
料を収集・整理・保管し、研究者に公開する
目的で昭和 59 年に設置された資料館を対象
に、特集陳列「資料館における情報の歴史」
を実施した。陳列では、資料館の前身である
明治 5 年設置の「書籍館」で作成した図書目
録、解題をはじめ、その旧蔵書や、『江戸城
本丸等障壁画絵様』などの調査研究に関係す
る資料などをとりあげ、文化財保護に関する
情報発信のあり方を紹介した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に
は下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

- ① 高橋 裕次「宮内省管理下における博物館
の活動について(「皇室と東京帝室博物
館」特集陳列図録 2009 P18-20)
- ② 恵美 千鶴子「皇室建築と博物館」(「皇室
と東京帝室博物館」特集陳列図録 2009
P21-23)

[学会発表] (計 1 件)

- ① 高橋 裕次「東京国立博物館における近
代美術の収集と展示について」(東京国立
近代美術館 60 周年記念シンポジウム近

代美術館の誕生—前史から未来へ、2012
年 12 月 1 日の講演)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高橋 裕次 (TAKAHASHI YUJI)

独立行政法人国立文化財機構東京国立博
物館・学芸企画部博物館情報課・課長

研究者番号: 00356271

(2) 研究分担者

丸山 士郎 (MARUYAMA SHIRO)

独立行政法人国立文化財機構東京国立博
物館・学芸企画部博物館教育課教育講座
室・室長

研究者番号: 20249915

(3) 研究分担者

浅見 龍介 (ASAMI RYUSUKE)

独立行政法人国立文化財機構東京国立博
物館・学芸研究部調査研究課東洋室・室長

研究者番号: 30270416

(4) 研究分担者

白井 克也 (SHIRAI KATUYA)

独立行政法人国立文化財機構東京国立博
物館・学芸研究部列品管理課平常展室・室
長

研究者番号: 70300689

(5) 研究分担者

島谷 弘幸 (SHIMATANI HIROYUKI)

独立行政法人国立文化財機構東京国立博
物館・副館長

研究者番号: 90170935

(6) 連携研究者

恵美 千鶴子 (EMI CHIDUKO)

独立行政法人国立文化財機構東京国立博
物館・学芸研究部調査研究課アソシエー
トフェロー

研究者番号: 60566123